

再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後（ 年 ） ● 再評価後（ 5 年 ） ○ その他（ ）					
1 事業概要	事業名	都市基盤河川改修事業 油川					
	事業場所	山口市宮野下 地内					
	事業主体	山口市					
	事業期間	《 前回評価 平成 31 年 時 》 平成 16 年度 ～ 令和 9 年度 《 平成 39 年度 》 （ 西暦 2004 年度 ～ 西暦 2027 年度 《 西暦 2027 年度 》 ）					
	総事業費 （内用地補償費）	≪ 2,847 百万円 》 2,847 百万円 （ 139 百万円 ）	既投資額 （内用地補償費）	2,011 百万円 （ 58 百万円 ）	進捗率 （用地補償費）	74 % （ 42 % ）	
	事業目的	榎野川水系油川は、その源を七尾山に発し、南下して山口市の市街地に入り、榎野川と平行して南西に流下し、支川の江良川と合流して、榎野川に注ぐ幹線流路延長3.6km、流域面積5.71km ² の二級河川である。洪水に対する安全度が低く、河川の氾濫による浸水被害が発生していることから、治水安全度の向上を目的として河道改修（T＝1/30）を実施する。					
	事業内容	全体計画延長L＝1,200m（Q＝46～60m ³ /s） 主な施設：河道掘削工、築堤工、護岸工					
事業効果	油川流域はこれまでも梅雨、台風時の豪雨により浸水被害を引き起こしてきた。昭和47年には集中豪雨により浸水面積6ha、浸水家屋25戸、また近年においても、平成2年には梅雨前線豪雨により浸水面積5ha、浸水家屋7戸、平成5年には梅雨前線豪雨により浸水家屋10戸の被害が発生しており、これらの浸水被害を解消するため、治水対策を実施する必要がある。						
2 再評価の視点	(1) 社会経済情勢の変化	社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化	榎野川流域ではこれまでに実施してきた治水事業により治水安全度は向上しつつある。榎野川の支流である油川の低地地域の都市化が進み住宅が増加しており、その氾濫区域内の資産は増加することが予想され、治水安全度の向上が求められている。			中項目評価	大項目評価
		関係市町及び地元の意向	【地元の推進体制等の状況】 地元住民の防災意識・関心度は高く、治水事業の推進に協力的である。 【地元の意向】 過去の浸水被害の発生により、地元の治水安全度向上の要望は強い。	中項目評価	A・B・C		
				中項目評価			

2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等 <table border="1"> <caption>(単位：百万円)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th>前 回 (基準年：H31)</th> <th colspan="2">今 回(再評価・<u>再々評価</u>) (基準年：R6)</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>全体事業</th> <th>全体事業</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">便益 (B)</td> <td>①一般資産被害軽減便益</td> <td>35,258</td> <td>56,845</td> <td>56,845</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②農作物被害軽減便益</td> <td>30</td> <td>13</td> <td>13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③公共土木施設等被害軽減便益</td> <td>59,710</td> <td>43,069</td> <td>43,069</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④その他の便益</td> <td>4,184</td> <td>10,282</td> <td>10,282</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>99,182</td> <td>110,209</td> <td>110,209</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>3,287</td> <td>4,452</td> <td>611</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>395</td> <td>460</td> <td>66</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>3,682</td> <td>4,912</td> <td>677</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用便益比 (B/C)</td> <td>26.94</td> <td>22.44</td> <td>162.79</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額 ※ ④には残存価値を含む 【費用対効果分析手法】 治水経済調査マニュアル(案) 令和2年4月 国土交通省河川局	区分	主な項目	前 回 (基準年：H31)	今 回(再評価・ <u>再々評価</u>) (基準年：R6)		備 考	全体事業	全体事業	残事業	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	35,258	56,845	56,845		②農作物被害軽減便益	30	13	13		③公共土木施設等被害軽減便益	59,710	43,069	43,069		④その他の便益	4,184	10,282	10,282		総便益	99,182	110,209	110,209		費用 (C)	①事業費	3,287	4,452	611		②維持管理費	395	460	66		③その他	0	0	0		総費用	3,682	4,912	677		費用便益比 (B/C)		26.94	22.44	162.79		大項目評価 Ⓐ ・ B ・ C
	区分	主な項目			前 回 (基準年：H31)	今 回(再評価・ <u>再々評価</u>) (基準年：R6)			備 考																																																								
			全体事業	全体事業	残事業																																																												
	便益 (B)	①一般資産被害軽減便益	35,258	56,845	56,845																																																												
②農作物被害軽減便益		30	13	13																																																													
③公共土木施設等被害軽減便益		59,710	43,069	43,069																																																													
④その他の便益		4,184	10,282	10,282																																																													
総便益		99,182	110,209	110,209																																																													
費用 (C)	①事業費	3,287	4,452	611																																																													
	②維持管理費	395	460	66																																																													
	③その他	0	0	0																																																													
	総費用	3,682	4,912	677																																																													
費用便益比 (B/C)		26.94	22.44	162.79																																																													
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し 榎野川合流部からの一連区間(L=800m)について現在施工中であり、JR山口線橋梁部については平成21年度完成済みである。 令和9年度(平成39年度)完成を目途に進捗を図っている。現油川接合部より上流部は、一連区間の完了後に河道改修の着手予定である。 【事業費の変化】 有 ☒ 無 【事業期間の変化】 有 ☒ 無	大項目評価 Ⓐ ・ B ・ C																																																															
(4) 代替案等の可能性	コスト縮減	護岸の裏込砕石には再生砕石を使用するなど再生材料の使用を促進し、コスト縮減を図る。 建設残土の処分においては、周囲の公共事業等と調整して可能な限り流用することとし、残土処分にかかる費用を縮減する。	中項目評価 Ⓐ・b	大項目評価 Ⓐ ・ B ・ C																																																													
	代替案	代替案としては現河川拡幅が上げられるが、本河川下流部においては市街地として住宅が密集しており河川用地の確保が困難である。よって、現計画の放水路案が妥当である。	中項目評価 Ⓐ・b																																																														
3 環境	配慮事項	植物では、チガヤ、クズ、ススキ等が確認されている。 昆虫では、ギンヤンマ等が確認されている。 他、ヒヨドリ等の鳥類、カナヘビ等の爬虫類も確認されている。 一連区間の施工においては現河川部を掘削する箇所が少ないため、施工による濁水等の影響は少ないと考える。 自然環境の保全を図るため、植生が繁茂できる材料を河床に使用する。																																																															
4 対応方針	総合評価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																															
	評価理由	浸水被害の低減を目指し、事業継続する必要がある																																																															
	備考																																																																

【用語説明】

- ※1 ○○○○： …以下説明
 ※2 ○○○○： …以下説明

都市基盤河川改修事業 油川

